

二〇二六年度

適性検査Ⅰ

注意

- 1 問題は①のみで、4ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むてはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出**しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受検番号**を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

共立女子第二中学校

1 次の「文章1」と「文章2」を読み、あとの問題に答えなさい。（*印の

ついでに「文章1」と「文章2」を読み、あとの問題に答えなさい。（*印の）

文章1

原爆投下から80年が過ぎ、被爆者の高齢化が進む。長崎市で9日に開かれた平和祈念式典で、被爆者代表として「平和への誓い」を読み上げたのは、自らの証言をデジタル技術で将来に残す「A語り部」となった93歳の男性だった。

首相や大使らが参列し、平和公園で開かれた式典の中盤、車いすに乗った白髪の男性が、ゆっくりとマイクの前に向かった。

1945年8月9日、私は長崎中学校の校舎内で被爆しました。13歳の時でした。

男性は、現在は横浜市に暮らす西岡洋さん（93）。メッセージを読み上げる代表を公募で選ぶようになってから、最高齢の被爆者となる。記憶が鮮明で、証言が具体的なことから選ばれた。

爆発の瞬間は、オレンジ色と黄色が混じったような光の海の中に一瞬全身が埋もれたような感覚でした。

級友たちはナイフのように尖った割れたガラスが体に刺さり、血だらけ

になっていました。

折り重なった級友たちの下になり、自身は助かった。

戦後、東京の大学を卒業し、商社に勤めた。地元の被爆者団体「神奈川県原爆被災者の会」に入り、体験を伝える語り部を始めたのは退職してからのことだ。

始めた当初は被爆当時に大人だった先輩の被爆者がいて、「自分の体験は珍しいものではない」と考えていた。だが、語り部を務められる人が年々減り、「もう少し頑張らなきゃ」と感じるように。90歳を過ぎても、横浜市内で小中学生の前で講話を続けてきた。

デジタル技術を使って被爆体験を継承する取り組みは、神奈川県庁から提案された。①「体力のあるうちに」と参加を決めた。

今月2日、横浜市港南区にある「かながわ平和祈念館」。設置されたばかりの「Aを活用した語り部」と題された大型モニターに、スーツ姿の西岡さんが映し出された。画面の中から被爆体験を語った後、「なにか質問はありませんか」と見学者に問いかけた。

女子中学生がマイクに向け「爆風の中で」伏せている時は何を考えていましたか」と尋ねると、モニターの西岡さんはうなずき、「伏せた次の瞬間、ドカーンという爆発音を予想していたのですが、そういうものがな

いまま4秒ぐらいが過ぎて不思議だな」とと答えた。

質問した女子中学生は「自分と同世代の中学生も被爆して、たくさん亡くなったんだ」と感じたという。

システムには、想定した130の質問に、西岡さんが回答する10時間以上のインタビュー映像が保存されている。見学者が質問すると、A（人工能）が趣旨を理解し、適切な回答映像を選んで再生する仕組みだ。

完成したシステムを見た感想を、西岡さんは「すごい便利。もう私がいなくてもいいなという感じがしました」と冗談交じりに振り返る。

9日に務めた被爆者代表は、体調を考えて「最後の応募」と決めていた。本番に臨むにあたり、元気を与えてくれたのは、昨年のノーベル平和賞だ。被爆者団体が集まり組織した日本原水爆被爆者団体協議会（日本被爆協）が、証言活動などを続けてきたことを評価されて受賞した。

「平和への誓い」は最後に賞に触れてこう語った。

受賞を契機として、世界中の人々が私たちを見てくれることに大きな意義を感じました。

絶対に核兵器を使ってはならない、使ったらすべてがおしまいです。

〔榎場勇太「A」と伝える 93歳の被爆者】（朝日新聞2025年8月10

日朝刊社会面）による〕

文章②

多くの企業で生成A（人工能）の導入が進んでいる。人間に代わってAが自律的に複雑な仕事をこなす、*Aエージェントの活用を検討する企業も増えてきた。

情報を調べて解釈し、*アウトプットを作成する領域はこれからはAの仕事になる。課題を与えればAが瞬時に解決してくれる。Aを使えば誰でも素早く一定の品質のアウトプットを作成できる。

こうした時代に人間が価値を発揮できるのは、「課題を発見し、問いを設定する」「アウトプットの正しさを疑い、判断する」という2領域であり、ここが差別化するポイントになる。2領域で不可欠なスキルは考える力（思考力）だ。

だが、②この力が危機にひんしている。Aのお勧め機能に頼っているうちに、自分で調べて選択する際に必要な思考力が低下していく。思考力は脳内で言葉を組み立てることの試行錯誤によって鍛えられるが、Aに依存するとその機会が減る。「書くことは考えること」であるが、文章作成を生成Aに任せて、自分で文章を書かずにすむようにもなった。考える力が衰えるのは自明だ。

文書作成にAを駆使すれば*タイムパフォーマンス（タイプ）が向上

し、自分の能力を上回る成果が得られたように見える。それと引き換えに AI時代に人間に求められる重要能力である「考える力」が低下し、ビジネスパーソンとしての価値を失う恐れがあることを自覚すべきだ。

考える力を劣化させないようなAIとの付き合い方を見いだすことが大切だ。タイパを優先してAIに依存するのではなく、能動的な好奇心を持ち、自分の脳を働かせながらAIを使うことや、人間の思考力を引き出し高めるAIの活用方法を探求することが生き残りの鍵となる。

〔増田貴司（東レ経営研究所エグゼクティブエコノミスト）「AI依存で劣化する思考力」（日本経済新聞2025年5月20日電子版「十字路口」欄による）

〔注〕 AIエージェント——人間が関わることなく特定の仕事を自律的に

実行できるAIシステムのこと。

アウトプット——出力。

タイムパフォーマンス（タイパ）——時間対効果。費やした時間に

対してどれくらい効果や満足

感が得られるか。

〔問題1〕

文章1に、①「体力のあるうちに」と参加を決めた。とあり

ますが、西岡さんが「AIを活用した語り部」に名乗りを上げたのは何のためだと考えられますか。四十文字以内で説明しなさい。なお、や。や「なども、それぞれ字数に数え、一まずめから書き始めること。

〔問題2〕

文章2に、②この力が危機にひんしている。とありますが、

それはなぜですか。四十文字以内で説明しなさい。なお、や。や「なども、それぞれ字数に数え、一まずめから書き始めること。

〔問題3〕

文章1と**文章2**をふまえて、あなたは学校生活や日常生活

のなかで、AIとどうつきあっていたいと考えますか。二百字以上四百字以内で書きなさい。ただし、あとの〔至順〕と〔きまり〕にしたがうこと。

〔手順〕

① **文章1**と**文章2**を読んで、Aーの長所と短所を書く。

② **〔手順〕**①をふまえて、あなたが学校生活や日常生活のなかで、Aーとどのようにつきあっていたいこうと考えるかを具体的に書く。

〔 마무리 〕

○ 題名は書きません。

○ 最初の行から書き始めます。

○ 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
だんろく

○ 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。

○ 、 や 。 や 「 など、それぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じますめに書きます。(ますめの下に書いてもかまいません。)

○ 。 と 「 が続く場合には、同じますめに書いてもかまいません。この場合、「。で一字と数えます。

○ 段落をかえたときの残りのますめは、字数として数えます。

○ 最後の段落の残りのますめは、字数として数えません。